

「担当者しかわからない」を解消し、実験データを組織の共有資産に変える設計手法

# R&D部門の属人化を脱却するExcelでの研究・実験データの効果的な蓄積・分析技術

IoT等で製造工程以降のデータ利活用は、急激に進展しています。一方、公的研究機関であれ、民間企業であれ、R&D部門におけるデータの取り扱い、属人的のままであり、効果的な利用、活用が殆ど進んでいないのが実態です。R&D部門は技術の源泉であり、データを精緻に管理し、効果的な利用、活用を行うことは、今後の競争力にとって不可欠です。

本講演では、まず、R&D部門のデータ蓄積の実情をお話させていただき、そのような状況がなぜ生まれているのか？そのような状況にはどのような問題を孕んでいるのか？を説明させていただきます。

次に、研究・実験データ、主にExcelの共有、利活用状況を改善するためには、データ探査、分析を意識したデータ蓄積が重要であることを説明させていただき、具体的にどのような点に注意をして、研究・実験データのExcelでの蓄積と分析を行っていくべきかを論じます。

最後に、データ共有システム、データベースを導入する場合の陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策に関して、解説します。

## 期待される効果

- ☑ 研究・実験データの共有、利活用状況を改善するためのデータ蓄積方法
- ☑ 蓄積されたデータを使ってデータ分析を行う時の注意すべき点
- ☑ データ探査、分析を意識したデータ蓄積を行うための意識改革
- ☑ 研究・実験データの共有、利活用を促進するためのシステムと体制の条件



講師

上島 豊 (うえしま ゆたか) 講師

株式会社キャトルアイ・サイエンス 代表取締役

- 1997年 3月：大阪大学 大学院 工学研究科 電磁エネルギー工学専攻 博士後期課程修了
  - 1997年 4月：日本原子力研究所 博士研究員
  - 2000年 4月：日本原子力研究所 研究職員
  - 2006年 3月：日本原子力研究開発機構（旧日本原子力研究所） 退職
  - 2006年 4月：キャトルアイ・サイエンス設立 代表取締役 就任
- 日本アイ・ビー・エム顧問、東京大学客員研究員、大阪大学招聘准教授などを歴任

# R&D部門の属人化を脱却するExcelでの研究・実験データの効果的な蓄積・分析技術

## 1. はじめに

講演者のR&D実績とデータ共有、利活用の取り組みについて

## 2. R&D部門のデータ共有の実情

- 2.1 R&D部門のデータ蓄積の実情
- 2.2 属人的データ蓄積状況が生み出される原因
- 2.3 属人的データ蓄積状況が引き起こす問題

## 3. データ蓄積状況を改善するために必要な方策

- 3.1 属人的データ蓄積状況を脱するために必要な方策
- 3.2 データ探査、分析を意識したデータ蓄積方法
- 3.3 蓄積されたデータを使ったデータ分析方法
- 3.4 データ共有、利活用状況を改善するために必要なプロジェクトチームの作り方

## 4. 陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策

- 4.1 データ蓄積、DB化着手時に陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策
- 4.2 データ蓄積、DB化後に陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策

## 5. まとめ

### セミナー概要

# 2026年 6月12日(金) 10:30~16:30

【Live配信】Zoomによるオンライン受講 【アーカイブ配信】 2026/6/16~6/30

※LIVE配信をお申込みの方は、追加料金なしでアーカイブ配信の受講が可能です。

【定員】定員無し

【受講料】45,000円（税別）（税込：49,500円）※1名

※同一企業様から複数名同時にお申し込み頂くと、人数に応じて下記割引が適用されます。

[2名様⇒20%、3名様⇒30%、4名様⇒40%、5名様以上⇒50%の割引となります]

※開催日の1週間前を目安に、最少開催人数に達していない場合は開催中止とさせていただきます。

### 申込書

R&D部門の属人化を脱却するExcelでの研究・実験データの効果的な蓄積・分析技術

以下の事項をご記入の上、日本アイアール・セミナー事務局宛にFAXまたはメールでお申込みください。

（※当社ホームページからのお申込みも可能です。）

会社名		部署名	
住所			
お名前		電話番号	
メールアドレス		受講形態	Live配信・アーカイブ配信

\*受講形態はいずれかに○を付けてください。

日本アイアール セミナー事務局

FAX：03-6206-9993

MAIL：ir@nihon-ir.co.jp

(TEL：03-6206-4966)